

重点取組分野	令和元年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①児童と学習課題を設定し、見直しをもって課題解決していけるように授業づくりを行っていく。②人生を豊かにしていけるよう、学習を通して学んだことを、児童自身が必要に応じて判断し活用できる力を育む。	①児童の切実感に応じた学習課題の設定を行うことで、主体的に学ぶ児童の姿が見られるようになった。②状況に応じた判断力を児童自身に十分に身に付けさせることができたとは言えない。今後、実態に合わせた、必要な手立てを打っていきたい。	B
豊かな心	①年間を通した「あおぞら活動」(たてわり活動)で、児童が互いの個性を認め、思いやる心や自他との関わり方について学ぶ。②道徳の授業や「人権標語づくり」「人権講話」等を通して、児童の人権意識を高める。また、人権教育授業参観などを利用して保護者との連携を図る。	①計画的にあおぞら活動を実施することができ、学年のかべを越え互いを尊重し合う姿が見られるようになった。②人権教育に関する職員研修を通して、学んだことを日常の教育活動の中で実践していくことができた。今後も継続して指導していく必要がある。	B
健やかな体	①スポーツ週間やスポーツデーなど子どもたちが定期的に運動に触れ合う機会を設定し、運動に親しむ環境をつくる。②児童が自身の健康に目を向け、食の大切さを意識し「健康会議」を運営するとともに、給食調理員や栄養職員と連携して、日々の給食時間を活用した食育を進める。	①運動委員会を中心に、児童が運動に触れ合える活動を行うことができた。多くの児童が積極的に運動に励むことができた。②健康会議を行い、児童自身に食の大切さを実感させることはできたが、その意識を継続させることに課題が見られた。	B
児童生徒指導	①「学校の約束」を職員で共有して、共通した指導を行うとともに、YPアセスメントを活用して、児童の自尊感情を育てる。②職員研修を通して特別支援教育についての理解を深め、子どもの問題解決に生かす。	①YPアセスメントシートをもとに、児童の実態を把握したが、横浜プログラム等を有効活用した取り組みは十分ではなかった。②毎月、気にしにくい児童についての情報交換を行い理解を深め、全職員で問題解決に努めた。	B
教育環境整備	①地域・保護者と連携し「ホテル池活動」を通して、朝比奈の環境を守っていくという気持ちを育てる。②これからの社会の変動に対応できるように、情報教育の指導と環境整備に努める。	①定期的にホテル池活動を行った。参加児童を増やす手立てが必要である。学習でも活用することにより朝比奈の環境をみんなの力で守っていくという気持ちを育てるようになっている。②情報教育アシスタントやプログラミング研修を行うなど、情報教育の指導と環境整備に努めた。	C
学校運営協議会	①教育ボランティアの協力を得ながら、朝読書、読み聞かせ、お話会や学級文庫の宅配などを通して、読書活動を一層推進し、児童の豊かな感性を育む。②地域の材を生かした学習活動を通して、児童の問題解決力を高めるとともに、地域を愛する児童を育てる。	①教育ボランティアの協力のもと、子どもたちが主体的に読書活動に取り組める環境を整えることができた。②児童の問題解決力を身に付けられるように、地域の材を生かして学習することを今後も意識して取り組んでいく。	B
a14	a22		
a15	a23		
いじめへの対応	①「休み時間アンケート」を毎月実施し、いじめの早期発見、早期対応等を心がけ、いじめ防止に努める。②「学校いじめ防止対策委員会」を毎月開催し、情報共有を行う。また、いじめの疑いがある段階で、直ちに「学校いじめ防止対策委員会」を開催し、情報収集と指導を行う。	①いじめの早期発見に努めることができたが、完全にいじめ防止につながらなかった。子どもたちが安心して学べるよう、今後もいじめの早期発見に努め、撲滅を目指していく。②毎月、各学級の気にかける児童を中心に情報交換を行い、共通理解を図った。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①主幹教諭を中心に経験のある教員の指導・助言のもと、実技研修・授業検討等実践的なメンター研修を進めることで、経験の浅い教職員の資質向上に努める。②教員の授業力向上を目指し、キャリアステージに応じた研修会・研究会への積極的参加をすすめる。③会議・行事の見直しをすすめ、週1日の定時退勤日を確立する。	①経験の浅い教員のニーズに合わせた研修内容を計画的に実施することができた。一人一人の教員が教師力を上げた。②キャリアステージに応じた研修会等に積極的に参加できた。③定時退勤日や、帰宅時間を意識し、計画的に業務を進めることができた。	B
ブロック内評価後の気付き	①共通に取り組んでいる「あいさつ運動」は、児童間や教師への挨拶ができるようになってきているが、学校への訪問者や学校外についてはまだ指導が必要である。②児童生徒交流はお互いに目的意識をもって進めることができ、中学生が運動会で演じたリレーの姿などを数年後の自分の姿とらえて目標とする児童もみられる。もっと交流を増やしてほしいという保護者の意見があるが、小中の物理的な距離と複数の小学校が関わることから今後の検討課題である。		
学校関係者評価	あいさつについては、全ての児童が自主的にできているとは思えない。学校での指導も大切だが、やはり家庭での声かけが一番大切である。もっと家庭でのあいさつの指導を行っていくべきだ。地域人材と連携をし、読書活動の推進や環境整備に取り組んでいる。保護者ボランティアが新しく参加したことよかった。子どもが主体的に取り組むことができるようにリーダー・イン・ミーの導入をすることに期待をしている。		
中期取組目標振り返り	学校の構成員が変わっても継続している本校の特色ある活動に引き続き取り組んでいる。ホテル池の活用について再考をし、活用を進めていく必要がある。職員数や児童数が減っているのを持続可能な方法を考えながら進めていく。単級が増えていくことから、異学年交流をさらに充実させていく必要がある。		

重点取組分野	令和2年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①人生を豊かにしていけるよう、学習を通して学んだことを、児童自身が必要に応じて判断し活用できる力を育む。②体験的活動による実感を伴った学習を通して、主体的・対話的で深い学びになるような授業づくりを行っていく。	各教員が学習指導要領の学習観に基づいた授業イメージを持てるようになってきた。主体的・対話的で深い学びになる授業づくり、児童が学習の仕方を身に付ける部分は、課題が残る。	B
豊かな心	①年間を通した「あおぞら活動」(たてわり活動)で、児童が互いの個性を認め、思いやる心や自他との関わり方について学ぶ。②道徳の授業や「人権標語づくり」「人権講話」等を通して、児童の人権意識を高める。また、人権教育授業参観などを利用して保護者との連携を図る。	①異学年交流活動がほとんどとれなかったが、学習の見合いなどで異学年との交流を図った。②リーダー・イン・ミーや道徳の授業や授業参観で一人ひとりを大切にすることなどの人権意識を高めた。	B
健やかな体	①スポーツ週間や長縄集会、スポーツデーなど子どもたちが定期的に運動に触れ合う機会を設定し、運動に親しむ環境をつくる。②児童が自身の健康に目を向け、年間を通して取り組み、「健康会議」を運営するとともに、日常生活でも意識できるようにする。	全校で行う運動に親しむ機会をもつことができずに残念であった。できる範囲で体育学習を進め運動の機会を確保した。	C
児童生徒指導	①「学校の約束」を職員で共有して、共通した指導を行うとともに、YPアセスメントを活用して、児童の自尊感情を育てる。②職員研修を通して特別支援教育についての理解を深め、子どもの問題解決に生かす。	①リーダー・イン・ミーの取組を通して、自分ができることを決め、実践することにより自尊感情を高められるようにした。②単発での研修は行ったが、学んだことを日常の取り組みに広げていくところに課題が残る。	B
教育環境整備	①地域・保護者と連携し「ホテル池活動」を通して、朝比奈の環境を守っていくという気持ちを育てる。②これからの社会の変動に対応できるように、情報教育の指導と環境整備に努める。	②ipadを児童が活用して慣れ親しむことはできてきた。個々の学習に生かせるようにしていく次の段階に進めるように教員のスキルを上げる必要がある。	C
学校運営協議会	①教育ボランティアの協力を得ながら、朝読書、読み聞かせ、お話会や学級文庫の宅配などを通して、読書活動を一層推進し、児童の豊かな感性を育む。②地域の材を生かした学習活動を通して、児童の問題解決力を高めるとともに、地域を愛する児童を育てる。	①読書活動の推進を図れた。地域学校協働本部が放課後学び場事業を開始し、月1回行うことができた。②例年行っている地域清掃で、児童が事前に打ち合わせを行うように変更した。児童が主体的に行う活動に方向づけられた。	B
a14	b7		
a15	b8		
いじめへの対応	①「休み時間アンケート」を毎月実施し、いじめの早期発見、早期対応等を心がけ、いじめ防止に努める。②「学校いじめ防止対策委員会」を毎月開催し、情報共有を行う。また、いじめの疑いがある段階で、直ちに「学校いじめ防止対策委員会」を開催し、情報収集と指導を行う。	①アンケートを基にいじめにつながる行動や子どもの様子をつかむことができた。②臨時の委員会を随時開き、認知し、対応を協議した。いじめの定義を再度共有し、見落としが無いように全職員で共通理解をした。	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	①主幹教諭を中心に経験のある教員の指導・助言のもと、実技研修・授業参観・授業検討等実践的なメンター研修を進めることで、経験の浅い教職員の資質向上に努める。②教員一人一人の授業力向上を目指し、キャリアステージに応じた研修会・研究会への積極的参加をすすめる。	①メンターチームを中心に授業を見合い、研究会を開いた。それぞれの気付きを共有することにより学びが深まった。週案にその週のすべきことなどを書き出すことにより効率よく仕事を進められるようになってきている。	B
ブロック内評価後の気付き	共通に取り組んでいる「あいさつ運動」では、朝の時間に当番の割り当てをし、取り組んでいる。効果が上がっているが、朝の時間以外の挨拶はまだ課題が残る。		
学校関係者評価	リーダー・イン・ミーの取組について授業参観をして意見を聞いた。次のような感想や意見をいただき本校として推進していくことへの理解をいただいた。聞くことがリーダーシップになる。相手のことを考えることが大切。コロナの時代だからこそリーダーシップが大切になる。子育ての柱として考えていることとつながる。どんな時代になっても変わらない。自ら学ぶこと、理解することが自分の成長につながる。向上心。学ぶことの楽しさを教えてほしい。そうすれば自主的に学ぶはず。		
中期取組目標振り返り	学校行事や異学年交流の内容や時間の変更があり、十分に取組めなかった年であった。その中でもできる範囲で活動を進められた。リーダー・イン・ミーの取組について1年目であったが児童の中に浸透してきている。指導者がよさを実感し、日常生活でも生かすような関わりができてきている。リーダー・イン・ミーの取組は、主体的な学習の姿勢にもつながっていくので、学校運営の核として進め、引き続き自ら考え行動する児童を育成していく。		

重点取組分野	令和3年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①人生を豊かにしていけるよう、学習を通して学んだことを、児童自身が必要に応じて判断し活用できる力を育む。②体験的活動による実感を伴った学習を通して、主体的・対話的で深い学びになるような授業づくりを行っていく。	①LIMの学習を通して、主体的に物事を考える力がついた。キャリア教育を通して、将来について考えるようになった。②遠足や体験学習、運動会の練習などの体験的活動を通して、相手意識をもちながら、主体的・対話的に学習を進めていくという姿が見られた。	A
豊かな心	①年間を通した「あおぞら活動」(たてわり活動)で、児童が互いの個性を認め、思いやる心や自他との関わり方について学ぶ。②リーダー・イン・ミーや道徳の授業、人権週間の取組等を通して、児童の人権意識を高める。また、人権教育授業参観などを利用して保護者との連携を図る。	①あおぞら活動を通して、高学年は、思いやりをもって接していこうとする姿が見られた。②LIMの授業を保護者に公開したことにより、保護者の理解を深めることができた。さらに、学校と保護者が同じ視点で子どもたちを育てていこうと、連携を図ることができた。	A
健やかな体	①スポーツ週間や長縄集会、スポーツデーなど子どもたちが定期的に運動に触れ合う機会を設定し、運動に親しむ環境をつくる。②児童が自身の健康に目を向け、年間を通して取り組み、「健康会議」を運営するとともに、日常生活でも意識できるようにする。	・長縄集会や短縄週間の機会を設け、運動に親しむ環境をつくった。前年度同様、できる範囲で体育学習を進め、運動の機会を設けた。	B
児童生徒指導	①YPAアセスメントを活用して、児童の状況をつかみ、リーダー・イン・ミーの取組を通して自尊感情を育てる。②職員研修を通して特別支援教育についての理解を深め、子どもの困り感に寄り添い、支援を考える。	・YPAアセスメントを活用して、学年やブロックで児童理解を深め、各学級の児童支援に生かした。共有したことをリーダー・イン・ミーの取り組みの重点に置き、計画・実施することができた。夏の職員研修等で、特別支援教育への理解を深めた。	A
教育環境整備	①地域・保護者と連携し「ホテル池活動」を通して、朝比奈の環境を守っていくという気持ちを育てる。②これからの社会の変動に対応できるように、情報教育の指導と環境整備に努める。ロイノートやipadの活用を進める。	①「ホテル池活動」には、毎回30名程度の児童が参加するようになった。今後も継続した活動が期待できる。環境整備を保護者や地域の方と連携して進めた。②各学年が情報教育の指導と環境整備に努め、ロイノートやipadを活用し、授業で取り組むことができた。	A
学校運営協議会	①教育ボランティアの協力を得ながら行っている各活動で、どのような力を育みたいかを明確にして、活動内容を見直ししていく。②地域の材を生かした学習活動を通して、児童の問題解決力を高めるとともに、地域を愛する児童を育てる。	①「チャレンジ広場」では、支援の必要な児童をボランティアの方と共通理解をし、学習支援を進めてきた。②「昔遊び」「地域清掃」「ユウカリ園の方との交流」「コンポストづくりとその活用」の指導「花植え」等地域の方との交流を通して地域愛を育むことができた。	A
a14			
a15			
いじめへの対応	①児童アンケートを毎月実施し、いじめの早期発見、早期対応等を心がけ、いじめ防止に努める。②「学校いじめ防止対策委員会」を毎月開催し、情報共有を行う。また、いじめの疑いがある段階で、直ちに「学校いじめ防止対策委員会」を開催し、情報収集と指導を行う。	①毎月の児童アンケートに加え、10月2日には担任と児童一人一人との面談を実施し、誰もが安心して登校できる環境づくりに務めた。②いじめ防止対策委員会の定例会を毎月実施し、職員間で児童の情報を共有し、いじめの未然防止や対応を職員全体で取り組んだ。	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	①主幹教諭を中心とした経験のある教員の指導・助言のもと、実技研修・授業参観・授業検討等実践的なメンター研修を進めることで、経験の浅い教職員の資質向上に努める。②教員一人一人の授業力向上を目指し、研修会・研究会への積極的参加をすすめる。③7つの習慣の考え方を活用し、教職員の学び方や生活を見直す。	①主幹教諭を中心に、OJTMメンバーへのアドバイスを定期的に行うことができ、校内教員のレベルアップにつながった。②コロナ禍において可能な限り研究会や研修会に参加し、授業力の向上に努めていた。③教職員一人一人が、リーダー・イン・ミーの考え方をともに、自身を見つめ直すことができた。	A
ブロック内評価後の気付き	各小学校で取り組んでいる「あいさつ運動」は、中学校でもその効果があり、小中それぞれで、主体的にあいさつする児童・生徒が増えた。ただ、現在の社会情勢もあり、小中学校の教職員が集まって情報交換などをする機会がほとんど取れないため、これまでに積み上げてきた小学校と中学校の連携が弱まってしまっているのではないかと不安もある。		
学校関係者評価	リーダー・イン・ミーの学習を通して、主体的に活動に取り組む児童が増えた。ダンボール劇団やお話会の子どもの感想文からは、記述する力が身につけていることが感じられる。本を読むことは考える力の育成につながる。今後も進めてほしい。伝記を読んだことをもとに、タブレット端末でプレゼンテーションをしていた。指導が大変だったと思うが、今後も一人一人に力が身に着くように指導をしてほしい。		
中期取組目標振り返り	新型コロナウイルス感染症予防の対策をしながら、教育活動に取り組むことができた。リーダー・イン・ミーの取組は2年目になり、重点研究に位置付け授業を見合う機会をもつことで、職員間での共通理解ができ、成果を上げている。教職員で、育てたい子ども像のイメージを共有することができている。自己肯定感を高める取組の一つとして、異学年交流を可能な範囲で進めている。ペア学年の取組で人間関係を広げ、登下校や休み時間にも自然に交流している姿が見られた。		